

論壇

経済危機で社会は変わる

今年はコロナで始まりコロナで終わった。新型コロナウイルスとの戦いはこれからもまだ続くが、1年を振り返って今年がどのような年であったか考えてみることは意味があるだろう。

2020年の世界経済は世界大恐慌以来の落ち込みである。大恐慌が終わった1940年ごろからみれば80年ぶりということになる。世界的なパンデミックという意味では、スペイン風邪から100年ぶりということになる。きわめてまれな危機の年であった。経済が危機に陥るときには、社

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

会の流れが大きく変わる。1970年代の2度の石油危機で日本の高度経済成長の時代は終わり、日本経済は内需重視から国際化への道を進む。1990年のバブルの崩壊とそれを受けた8年後の金融危機で、日本の経済はデフレ構造に大きく変化した。物価や賃金は上がらず、金利はかつてないほど

などでデジタル化が進み、世界的な保護主義はさらに広がる兆しを見せている。日銀による大規模な金融緩和と政府による大規模な財政刺激が続く、日銀のバランスシートや政府の公的債務は膨れ上がるばかりである。こうした動きの先に何かあるのか考えると悲観的な気持ちになってしまう。

コロナに終始した1年

低くなっている。

それではコロナ前とコロナ後では、経済はどのように変化していくのだろうか。変化といっても新しい動きが出てくるというよりも、コロナ前にも底流に流れていた動きがより加速化して顕在化する面が多いだろう。働き方や教育

療の活用も広がるかもしれない。大学などの教育でも、キャンパスに学生が集められないことは悲しいことだが、それでもオンライン教育の活用が広がったことで教育でも新たな流れに期待できる面も多い。

デジタル化が生活に刺激

働き方・医療・教育だけでなく、社会のあらゆる面でデジタル化が加速化している。コロナ危機がその導火線となっているのだ。あとから見ると、2020年から21年は社会が大きく変わる節目になっているということになるだろう。

デジタル化が進むことは、スマホやパソコンに慣れていない人たちには厳しい面もある。デジタル